

ドイツ文学わき道散歩(5)

“ゲルマン的な”という形容詞がこれほど似合う文学作品は、おそらく他に存在しない。『ニーベルンゲンの歌』は、西暦1200年頃書かれた大叙事詩で、ドイツや北欧に広く頒布していた英雄伝説を起源としている。中世ヨーロッパ、騎士道、などと聞けば多くの人が華やかな城や可憐なお姫さまを連想しがちであるが、そのイメージは大きく裏切られるはずである。何しろこの物語に登場する姫君といえば、豪傑の女王ブリュンヒルトに復讐の王妃クリームヒルト。見た目こそ美しい彼女たちではあっても、我々の想像する“お姫さま”には程遠い。ジークフリートの持つ聖剣バルムンクや、大竜ファフニール、精霊、財宝といったファンタジックな要素をふんだんに盛り込んだ伝説であるにも拘わらず、同じく英雄伝説として名高いブリテン島のアーサー王の物語とはひと味違う血生臭い展開には、驚かされること必至と言えよう。

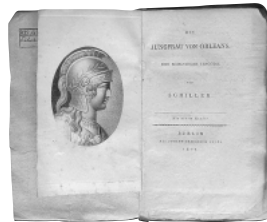
ところで、“ニーベルンゲン”という響きにヴァグナー(ワーグナー)の楽劇『ニーベルンゲの指輪』を思い出す方も多いのではなかろうか。上演に四夜を要するこの大作は、『ニーベルンゲンの歌』だけでなく、その源流とも言うべき北欧のサガやエッダの影響も色濃く受けているため、若干ストーリーが異なっているものの、ヘッベルの戯曲『ニーベルンゲン』と共に、現代にニーベルンゲン伝説を甦らせた作品である。ヴァグナーの楽劇からドイツ文学の入り口へ足を踏み入れるのも、また愉しからずや。ドイツ語圏とは切っても切れない間柄の音楽の世界。なかでもドイツ文学と密接な関係にあるオペラや歌曲は沢山あるのだが、それはまた別のお話。

1999年度ドイツ語学科卒業生 小林 ゆかり

本学図書館のスペシャルコレクション(17)

フリードリヒ・フォン・シラー ~ Friedrich von Schiller ~

ドイツ劇文学作家として大きな功績を残したフリードリヒ・フォン・シラー(1759 - 1805)の作品と研究書コレクション。『ドン・カルロス』、『オランダ離反史』、『詩集』、『オルレアンの処女』などの稀観書を数多く含んでいる。



コレクション収録数 約900点